

第2号様式（第4条関係）

地域づくり総合支援事業（ふるさと・きずな維持・再生支援事業）  
事業計画（変更計画）書

平成25年6月28日

1 実施主体

(1) NPO法人等が申請する場合

NPO法人等 (実施主体)	種別及び名称	特定非営利活動法人シニア人財倶楽部		
	住所	いわき市平字童子町2番地10		
NPO法人等 (連携先)	種別及び名称		担当者名	
	住所		電話番号	
会議体に参画 する行政	名称及び部課名		担当者名	

(2) 協議体が申請する場合

協議体の名称				
代表構成員の団体名 及び代表者職氏名				
構 成 団 体	都道府県・市区町 村名及び部課名		事業における 役割	
	民間非営利組 織の種別・名称		事業における 役割	
	住所		電話番号	

2 事業概要

事業名	団地及び仮設住宅居住の高齢者の孤立を防ぎ心身の解放を図るコミュニティづくり事業
総事業費	2,707,000円（うち希望補助金額 2,430,000円）
事業の実施期間	平成25年7月1日から平成26年3月31日まで

注：補助対象期間は補助金の交付決定日からとなります。

3 事業計画

地域における 課題と事業の 目的	<p>地域課題、地域社会にとっての必要性（ニーズ）及びその確認方法、重要性、この事業により期待できる成果、地域住民への効果等がわかるように記載してください。</p> <p>公共交通の衰退と高齢化に伴い生活環境が悪化している団地に加え、仮設住宅では、住居の質を含めた閉鎖的な環境、家族や友人との離散、先行き不透明な入居期間など、慣れない土地での避難生活が居住者の心</p>
------------------------	---

	<p>その影響が顕著である。</p> <p>弊法人は買い物に不便な団地や各仮設住宅を巡回して生鮮食料品等の移動販売事業を実施しているが、住民の声として団地では「一人暮らしで寂しい」、仮設住宅では「閉塞的な仮設住宅エリアから出たい」「日々コミュニケーション不足で寂しい」という声が多く聞かれる。</p> <p>復興庁の調査による住民意向調査でも、避難生活で困っている分野として「コミュニティ形成」が上位に挙げられているが、理想的な町外コミュニティの整備には自治体との協議や造成・建設にかかる課題に加え、地元住民との感情のあつれきの問題も大きく、まだまだ時間がかかるものと思料される。</p> <p>そこで、団地や仮設住宅の高齢者や独居老人など生活弱者が集える場所として、いわき市山間部の地域交流センター「三和町ふれあい館」及び渡戸高野多目的集会所等を開放し、地元住民との交流による相互コミュニケーションを通して一時的にでも精神的な解放を図り、新たなコミュニティ作りに貢献することを目的とする。</p>
事業の目標	<p>「〇〇を〇〇以上にする」等、可能な限り数値を用いて記載してください。</p> <p>団地や仮設住宅の高齢者が気軽に参加でき、リラックスして楽しめるイベント（交流教室）を毎月2回実施する。</p> <p>1回の参加者は25人を見込み、事業実施期間8カ月で16回実施、延べ計400人の参加者を見込む。</p>
事業内容	<p>事業の内容、実施時期、実施場所（会場）、参集範囲及び参加予定人数等を具体的に記載してください。事業内容が複数に分かれる場合は、事業ごとに記載してください。</p> <p>毎月2回、団地・仮設住宅居住者から参加希望者を募り、三和地域での交流教室や交流イベントを実施する。団地や仮設住宅の高齢者は自家用車などの移動手段を持たない方が中心となるため、送迎用小型バスを運行する。</p> <p>実施時期：平成25年7月から平成26年3月（7月は告知・参加者募集期間とする）</p> <p>実施場所：地域交流センター「三和町ふれあい館」、渡戸高野多目的集会所、農地（三和町）、他</p> <p>募集範囲：いわき市内の団地（泉ヶ丘ハイタウン、玉川団地、若葉台団地）、各仮設住宅（銭田、白水、内郷雇用促進住宅、上荒川、作町、四倉鬼越、好間工業団地大熊、林城、中央台、下高久富岡）の居住者</p> <p>参加予定人数：1回の参加者は25人を見込み、事業実施期間8カ月で延べ計400人の参加者を見込む。</p> <p>事業内容：</p> <p>健康増進・里山散策ウォーキング</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. スローフード（田舎料理）体験</li> <li>2. ソバ打ち体験</li> <li>3. 農業体験・体感（野菜づくり）</li> <li>4. カラオケ教室</li> <li>5. 絵手紙、カレンダー等のクラフト制作</li> <li>6. 渡戸の獅子舞（県指定重要無形民俗文化財）見学</li> <li>7. ホタル観賞会</li> </ol> <p>その他参加者へのヒアリングなどを行い、参加者に喜んでもらえるイベント（交流教室）を月2回の頻度で実施する。</p>
見込まれる	<p>1. 本県の復興支援・被災者支援の観点</p> <p>事業によって見込まれる成果について、直接的な効果と波及効果の観点の2つの観点で記載してください。被災者支援の場合は、特に、本事業により支援を受けた被災者の延べ人数を記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者、特に独居老人に対する他者とコミュニケーションが図れるレクリエーションの提供</li> <li>・過疎化が進む農村部のにぎわい創出</li> </ul> <p>事業実施期間8カ月で延べ計400人の参加者を見込む。</p>

成果	点	
	2. 取組 実施主 体の運 営力強 化の観 点	<p>取組内容により、取組実施主体においてどのように運営力強化が図られるのか記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 移動販売事業において、顧客とのより円滑なコミュニケーションが図られる。</li> <li>・ 事業主旨に賛同いただいた方の会員化が図られる。</li> </ul>
事業	スケジュール	<p>いつ、どのような活動を行うのか、事業の進め方、段取りがわかるように記載してください。</p> <p>平成25年7月より告知を行い参加者を募り、同年8月より前記1～8の各イベント（教室）を行う。</p> <p>毎回案内チラシを制作し、移動販売事業の顧客に配布及び各仮設住宅の掲示板や集会所等で告知する。</p>
事業実施体制		<p>事業の実施責任者、会議体の構成員の名称及び役割分担等を記載してください。</p> <p>複数の団体が連携して申請する場合は、連携の具体的な内容についても記載してください。</p> <p>実施責任者：藁谷道弘（代表理事）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康増進・里山散策ウォーキング担当：梅津千博（理事）</li> <li>2. スローフード（田舎料理）体験担当：藁谷勝基（正会員）</li> <li>3. ソバ打ち体験担当：田子清治（理事）</li> <li>4. 農業体験・体感（野菜づくり）担当：北村浩二（理事）</li> <li>5. カラオケ教室担当：阿部洋太郎（理事）</li> <li>6. 絵手紙、カレンダー等のクラフト制作担当：田原口稔（理事）</li> <li>7. 渡戸の獅子舞（県指定重要無形民俗文化財）見学担当：吉田晴紀（理事）</li> <li>8. ホテル観賞会担当：四家博三郎（理事）</li> </ol> <p>企画・告知担当：藁谷貴実人（事務長）、小鍛冶一寿（職員）</p>
事業終了後の	展 開	<p>事業終了後、会議体の取り組みをどのように継続し、または発展させるのかを記載してください。</p> <p>各イベント（教室）参加し、地域と良好な関係を築くことができた参加者には弊法人の会員として入会していただき、各種事業に適時参加していただく。</p>
事業の先進性・	普及性	<p>どのような先進性を有するか、どのようにして他のモデルとなるのかを記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活弱者を優先してサポートする取り組みである</li> <li>・ 団地及び仮設住宅居住者に対しては、同じ居住空間に赴いてサービスを提供するのではなく、生活区域を離れた場所（三和町）で実施することにより、一時的にでも精神的開放感を味わってもらえる事業</li> <li>・ 山間部集落と団地及び仮設住宅居住者とのマッチングによる相互コミュニケーションを通して、にぎわい創出と生活支援（健康増進・余暇の提供）を図るといふ両者にメリットのある取り組みである。</li> </ul>
特記事項		<p>特に説明しておきたい事項、アピールポイント等ありましたら記載してください。</p> <p>弊法人では平成22年度より高台に位置する団地等近隣スーパーの撤退に伴い買い物に難儀している地域（泉ヶ丘ハイタウン、玉川団地、若葉台団地）での移動販売事業を実施していたが、東日本大震災以降は、市内の各仮設住宅（銭田、白水、内郷雇用促進住宅、上荒川、作町、四倉鬼越、好魔工業団地大熊、林城、中央台、下高久富岡）にも範囲を広げて、福島県緊急雇用創出基金事業として実施している。野菜・肉・魚・</p>

	<p>その他食料品等を販売する現場は団地及び仮設住宅居住者らとのコミュニケーションの場にもなっており、彼らの生活に欠かせない存在となっている。しかしながら、各場所とも週1回の巡回であり、限られた販売時間であるため、もっとゆっくりゆったりとしたコミュニケーションの場を提供したいという思いが強い。</p> <p>一方で、弊法人は平成23年度より同じく福島県緊急雇用創出基金事業「農業農村活性化推進事業」として市内三和地域で農業にも取り組んでいる。</p> <p>さらに、平成24年度より同地域において同じく福島県緊急雇用創出基金事業「6次産業化による三和地域活性化モデル事業」を受託し、そば店「御食事処なごみハウス」の営業などを行っている。</p> <p>こうした取り組みが評価され、農林省主管の都市と農山漁村の共生・対流表彰事業「オーライ！ニッポン大賞」において平成24年度弊法人が審査委員長賞を受賞した。</p> <p>これら経営資源及び事業ノウハウを有効活用して、団地及び仮設住宅居住者の生活において余暇・コミュニケーションの面で支援し、同時に山村部集落のにぎわい創出を図りながら、新たなコミュニティづくりに寄与したい。</p>
--	--

※用紙が足りない場合は、適宜追加してください。

※地域社会にとっての必要性（ニーズ）について確認できる資料（新聞の切り抜きやアンケート結果等）がある場合は、A4用紙1枚（両面可）に限り添付できます。

第3号様式（第4条関係）

地域づくり総合支援事業（ふるさと・きずな維持・再生支援事業）  
収 支 予 算 書

申請者名 特定非営利活動法人シニア人材倶楽部

【収入の部】

（単位：千円）

区 分	平成 25 年度 予 算 額	明 細
ふるさと・きずな維持・再生 支援事業補助金	2,430	
自己資金（負担者名）	277	
シニア人材倶楽部	277	
事業収入		
その他収入		
収入合計	2,707	

【支出の部】

（単位：千円）

区 分	平成 25 年度 予 算 額	明 細
人件費（共済費を含む）	318	企画・告知担当職員人件費 6,640円×16日(回)×2（交流教室・交流イベント）×1人=212,480円 イベント（教室）同行スタッフ人件費 6,640円×16日(回)×1人=106,240円
報償費	144	イベント（教室）サポートスタッフ謝金 3,000円×16日(回)×3人=144,000円
旅費	0	
需用費	826	
消耗品費	345	肥料代105,000円、弁当材料費@500円×のべ400人=200,000円、飲み物代@100円×のべ400人=40,000円
燃料費	61	ガソリン代 150円×64km×16日(回)×4（事前打ち合わせ及び各仮設住宅への告知活動含む）÷10
印刷製本費	420	募集チラシ代 @50円×500部×16回×1.05=420,000
役務費	259	

318,720

61,440

通信運搬費	27	電話料 3,000円×9月=27,000円
手数料	200	フリーペーパー掲載料 50,000円×4回=200,000円
保険料	32	障害保険加入料 @80円×のべ400人=32,000円
使用料及び賃借料	1,160	送迎用小型バスチャーター代 @65,000円×月2回×8月= 1,040,000円 施設使用料 10,000円×12日(回)=120,000円
委託料		
支出合計	2,707	

注1 用紙の大きさは、A列4番とすること。欄が足りない場合は、適宜追加してください。

注2 「明細」欄には各区分の積算内訳として、名称、数量、単価、金額を必ず明確に記載すること。なお、「明細」については別紙として添付しても差し支えない。仕様については別途資料を添付すること。

注3 行政による他の補助事業も併せて利用する場合は、各補助金の用途を明確に区分し、この資金計画には、ふるさと・きずな維持・再生支援事業補助金を使用する部分の収支のみ記載すること。他の補助事業にかかる収支についてはこの資金計画には計上せず、別様式にて収支予算書を添付すること。また、他の補助事業の内容が分かる補助金交付要綱、要領等、用途の区分が分かる資料を添付すること。